1　研究構想図

本校の教育目標

○明るく元気な子
◎ねばり強くやり通す子
○深く考える子
○なかよく助け合う子

児童の実態

・文章構成や重要な言葉を意識して読むことができる。
・昨年度取り組んだ指導事項を意識して読もうとしている。
・要約や要旨をまとめたり、自分の考えをもったりすることが苦手な児童もい

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

（１）　日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
（２）　日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
（３）　言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研 究 主 題

関わり合い、主体的に学び、深い学びを実現する児童の育成
～考えを形成するための指導を通して（「読むこと」説明的文章）～

目指す児童像

自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりする児童

低学年
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもち、表現する児童

中学年
文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもち、表現する児童

高学年
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる児童

研 究 仮 説

国語科の読むこと（説明的文章）において、
考えを形成するための手立てを工夫することで、児童が深い学びを実現することができる。

授業実践

◎指導事項の明確化
○説明的文章の解釈の仕方
○全学級での指導事項の系統表に則した授業
◎考えの形成のための手立ての検討

言語活動の日常化

◎「声のものさし」「話し方・聞き方名人」の教室掲示
◎音読・暗唱
「今月の詩」（低・中学年）・百人一首（高学年）の取組
◎読書
「えほんの木」（全学年）の取組